

# EPOCH MAKER

えぽっく・めいかー

## 規則は変えられる?! ～校則のこれまでとこれから～



「校則」という一定の決まりは、集団生活の中で学校が教育目的を達成するために必要です。しかし、必要かつ合理的な範囲を超えている例を耳にすることがあります。時代の流れを受け、学校と生徒が協力して校則を見直す動きが出てきました。

今回は区内近隣の大学生が企画・編集を行いました。本誌をきっかけに、身近にある様々な決まりごとの目的を考えたり、見直したりするきっかけとなれば幸いです。



- ◆ 違和感を覚えた!?校則について
- ◆ みんなのルールメイキングプロジェクト
- ◆ 「校則」を変えた高校の取り組み紹介
- ◆ 生理の貧困とすずらんスマイルプロジェクト
- ◆ エポック10事業報告
- ◆ エポック10情報

P2  
P3  
P4・5  
P6  
P7  
P8

# 違和感を覚えた!? 校則について

通っていた学校では、こんな校則がありました。  
みなさんの学校ではどんな校則がありましたか？  
実際にあった校則をまとめました。



## 頭髮編

- ポニーテール禁止
- 癖毛は美容室からの証明書を提出
- 髪ゴムは黒・茶・紺のみ
- 地毛が茶色の方は証明書を提出
- 前髪は目にかからないように
- ツブロック禁止
- 耳に髪の毛がかからないようにする
- 眉毛の手入れ禁止

## 制服編

- スカートは膝丈
- 靴下の長さは男子はくるぶし、女子は白のハイソックス
- 登下校のジャージ禁止
- 下着の色は白かベージュ →定期的なチェック
- ストッキング禁止

## その他編

- 恋愛禁止
- 自転車通学禁止
- 男女で登下校禁止
- カイロは貼るカイロのみ
- 寄り道禁止

## 持ち物編

- カバンにつけるキーホルダーはお守り一個まで
- 傘やマフラーは無地で華美でないもの



## 社会問題になっている校則

訴訟などの社会問題になっている校則として有名なのが「黒染め校則訴訟」である。大阪府立高校の女子生徒が、髪を黒く染めるよう強く指導されたことが原因で不登校になったと訴えた。この裁判で大阪地方裁判所は「髪の染色や脱色を禁止した校則は学校の裁量の範囲内で、頭髮指導も違法とはいえない」とする判断を示した。

一方で生徒が不登校になった後、学校が教室から机を撤去し、座席表や名簿から名前を消したことについては許されないと判断し、33万円を支払うよう大阪府に命じた。このように裁判に発展するケースも少なからずあることが現状である。この黒染め校則訴訟の他にも、下着の色指定や防寒着着用の問題、トイレに行くだけで罰則など本当に必要なのか疑ってしまう校則が数多くある。

生徒を守るための規則が、逆に生徒を傷つける校則へ変わってしまっている可能性があることを一度見直してみるのはいかががでしょうか。

## そもそも校則って?!

校則とは、児童・生徒が健全な学校生活を営み、より成長・発達していくために、学習上・生活上の規律として定められた決まりごと。

# 他者との対話を通して「自分たちの当たり前を、自分たちでつくる」経験を生徒たちに提供したい

## —NPOカタリバが取り組む生徒主体の校則見直し「みんなのルールメイキングプロジェクト」

認定NPO法人カタリバ 古野香織さん



### 全国で広がる校則見直しの動き

ここ数年、「校則」についてのニュースを目にする機会が増えてきました。頭髪に関する校則「ツープロックの禁止」など、日々の学校生活における校則やルールについて、違和感の声が上がリ、大きな話題になっています。

認定NPO法人カタリバ（以下、カタリバ）では、2019年度から、経済産業省「未来の教室」実証事業である「みんなのルールメイキングプロジェクト」をサポートしています。これは、生徒が主体となって、先生・保護者・地域の方々など学校をとりまく様々な関係者との対話を重ね、みんなが納得できる着地点をつくっていくプロセスを通して、課題発見・合意形成・意思決定をする力を育てていくことを目指したプロジェクトです。

実は、このような校則・ルールの見直しに生徒が参画する仕組みは、諸外国では、民主主義社会における主権者としての姿勢を育む教育（＝シティズンシップ教育）の一環として積極的に行われてきたものの、日本ではあまり一般的ではありませんでした。しかし昨今、文部科学省から全国の教育委員会に向けて社会常識や時代に合わせて積極的に校則を見直すよう書面が示されたり、メディアで各校の取り組みが紹介されたりと関心が高まる中、日本でも生徒が主体となった校則・ルール見直しの動きが急速に全国の学校へ広がり始めています。

### 校則・ルールを変えるだけでなく、なぜ「対話」が必要なのか

今年度の実証事業校としてカタリバと連携している学校の一つに、栃木県立足利清風高校があります。こ

の高校では、6月ごろから風紀委員会を中心に有志の「ルールメイキング委員会」を立ち上げ、生活指導の先生と共に積極的に校則の見直しを進めています。

最初に行ったのは、先生と生徒がひとつの円になり、「なぜ、ルールメイキングに取り組みたいのか」について意見を出し合うワークショップ。生徒からは「疑問に思う校則がある」「学校の役に立ちたい」「より楽しい学校生活を送るためにルールを変えたいと思った」などの声が上がリ、先生方からは「本当は、ルールを変えることの怖さもある」「でも、生徒や先生、保護者、地域、みんなでより良い学校をつくっていききたい」との声が上がりました。先生は、普段の関係性の中でなかなか聞くことができない生徒の“本音”を聴くことができ、生徒は、先生にも怖さがあるということ、そしてお互いに「良い学校をつくっていききたい」という同じ思いを持っていることに気づくことができました。

普段の学校生活では本音を話すのはなかなか難しいことですが、改めて対話の場を設けることで、その関係性を超えて、本音で語り合う文化を築き、お互いが本当に“納得”できる着地点を探していくための土壌を整えることが大切です。

ルールメイキングを経験した全国の生徒たちは、「様々な価値観・立場の人の声を聞いて、合意形成することの大切さに気付いた」と話してくれます。様々な人と対話しながら「自分たちの当たり前を、自分たちでつくる」経験を通じて、生徒たちが市民社会の担い手として、たくましく成長してくれることを願っています。また、こういった取り組みが、私たち大人にとっても当たり前と思ってきたルールを疑うきっかけとなり、社会をより良くするための新しい対話につながったらうれしく思います。

# 「校則」を変えた高校の

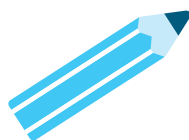
## 自分たちで校則を決める機会を学校と共に!

筑波大学附属坂戸高等学校  
令和3年度 生徒会長  
塩川 遥香 さん



私が生徒会長をしていた1年間に、筑坂(学校の愛称)の制服や整容に関する校則が大きく変わりました。昨年度までは一般的な校則が緩くありましたが、今から2年前の生徒総会で先輩が、学校側に「先生、何故ピアスがいけないんですか?」と質問をしてから大きく筑坂が動き出しました。筑坂はグローバル化を謳い、世界中から様々なバックグラウンドを持つ生徒が集まっています。ダイバーシ

ティを学ぶ環境の中から出てきた、当たり前を問うような質問でした。筑坂は先生方も様々なバックグラウンドを持ち海外経験が豊富な方が多いため、この質問を正面から受け止めて下さり、先生方の間でも活発に議論をして頂いたと聞いています。



生徒会と先生方がやり取りを重ねた結果、約1年前の2020年11月から筑坂魅力化プロジェクトを共に立ち上げ、制服を標準服化し、整容規定も見直し、新校則をどう運用するかを考えました。ちょっと予想外だったのは、先生方よりも生徒の中に「不良学校になってしまう。」とか「毎日、服装を考えるのが面倒臭い。」といった保守的な意見が多かったということです。高校に入るまでにできた価値観が大きく

## 未来を予測することが難しい時代に教育現場に必要なこと

筑波大学附属坂戸高等学校  
生徒指導部長 主幹教諭  
中臺 昇一 先生



「先生、ピアスはなぜいけないんですか?」と生徒に迫られた時、以前の私ならば何かもっともらしい理由を付けて取り合わなかったかもしれません。実は、私自身も教育のグローバルスタンダードが校則にはないことに気が付いていましたが、矛盾を抱えながらも何となくこの問題から目を背けていたように思います。

しかし海外生活を経てこの筑坂と言う学校で再び教鞭を取ることになり、様々なバックグラウンドを持つ生徒たちと関わる中で、この生徒からの問いに真正面から向き合わなければ、次世代を生きる日本の若者たちを教える資

格が無いのではないかと考えるようになりました。そういう思いの輪を教員間で少しずつ広げ、そして生徒とも沢山議論しながら作ったのがこの校則です。そして何と言っても一番重要なのは、**生徒たち自らがこの校則を大切に思い、自らの手で運用をしている**という点にあります。

今や高校生も、少し前にはできなかった多様な生き方や考え方を選択することができる時代になりました。今回の制服や整容規定の見直しでは、**LGBTの生徒や外国人の生徒への配慮**などを盛り込むような意見が生徒側から活発に出されました。教育の世界でもDiversity(ダイバーシティ)and(アンド)Inclusion(インクルージョン)(※2)が叫ばれて久しいですが、なかなか一般的には進んでいないのが現状です。しかし、高校生の方がもっとも時代に関心を感じ、正しいものを選択しようとする意識が進んでいると感じています。今回、これからの時代を生きる若者が持つ意見に耳を傾け、**その感性を引き出すような関わりこそがこれからの日本の教育現場には必要**ではないか、と改めて生徒たちから教えられたと言うのが率直な感想です。

これからこの新校則が筑坂の伝統となるよう、持続可能なものにしていくことが生徒たちに課せられた大きなテーマです。私たち教員集団もこのVUCA時代(※3)に何を教えるのかを考え、生徒たちの進化に遅れないようアップデートをしていかなければならないと思います。



# 取り組み紹介



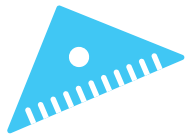
影響していると感じました。

新校則は学校側が一方的に押し付けるのではなく、生徒が主体者になって持続可能な校則にしていくというコンセプトから、次のような校則ができました。

**「学校生活にふさわしい服装と容姿を、状況や他者にも配慮して自身で判断すること」**

この一文が筑坂の服装・整容に関する校則です。運用に関する細かい事項は、生徒たちが自主規制をつくり後輩たちが長く続けられるようにと考えました。その結果、服装は制服でも自由服でも自由に選べ、ピアスも金髪も

OKです。とんでもない学校になってしまうと言う学校外の心配をよそに、私たちは校則の趣旨を理解してちゃんと学校生活を送ってい



る。学校が明るく、より一層楽しくなったような気がします。

筑坂は探求の勉強や国際バカロレア(※1)を学ぶことができるリベラルな校

風の学校です。先生方からはいつも「自分で考えなさい。」「自分で決めなさい。」とされていますが、私たちの大きな関心事である制服や身だしなみを**自分たちで自由に決める機会を学校と一緒に**持てたことは、本当に良い経験になりました。私は間もなく筑坂を卒業して大学生になりますが、この経験を生かしこの先の**人生を自分で判断して自分で決める**ことができる地球人になれるよう勉強を続けたいと思います。

- ※1 世界共通の大学受験資格を得られる国際的な教育プログラムのこと。
- ※2 性別や国籍、年齢などに関わりなく、あらゆる違いを受け入れ、それぞれの個性を発揮し活躍できる社会の実現を目指すこと。
- ※3 V(Volatility:変動性)、U(Uncertainty:不確実性)、C(Complexity:複雑性)、A(Ambiguity:曖昧性)の頭文字をとった造語で、未来を予測することが難しい時代のこと。



## 書籍紹介

### 「学校弁護士 スクールロイヤーが 見た教育現場」

(神内 聡  
KADOKAWA/角川新書)

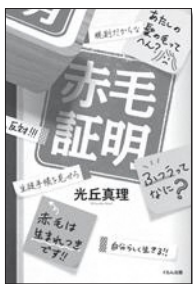
内容:都内私立高校で勤務する社会科教師と、いじめなどの子どもの権利が問題になる事件を専門的に扱う弁護士の2つの立場から見える、「教育の実情最前線」がわかる一冊。



### 「赤毛証明」

(くもん出版)

内容:赤毛が地毛であることを証明するため、生徒手帳に「赤毛証明」を押された中1のメグ。「ふつうって何だろう?!」自分らしく生きるために声をあげる少女の物語。



## 豊島区立中学校の標準服のご紹介

I型(スラックス)II型(スカート)など数字で標記する学校もあります。標準服は各学校で異なり、下記はその一例です。



女子はスラックスを選ぶことも可能です。

標準服一例  
(西池袋中学校)

# 生理の貧困 ご存知ですか

経済的な理由により生理用品を買えないことを指しますが、実はその背景にはさまざまな問題を抱えている場合があります。

- **経済的なDV**：生活費を少ししかもらえず、生理用品に使えるお金がない
- **ネグレクト**：親から生理のことを教えてもらえない、生理用品を買ってもらえない
- **家族環境**：父子家庭で父親は生理用品を買う認識がないなど、十分なサポートが受けられない
- **社会的問題**：生理を恥ずかしいもの、隠すべきものという風潮がある
- **理解不足**：生理の痛みへの無理解、痛みの対処法、快適に過ごすための商品を知る機会がない

ところで、生理のことをオープンな話題にしづらくなったのはいつからなのでしょう。

「古事記」の中に生理のことについて最古の記述があり、その時代には生理が会話の中に自然に登場していたようです。生理が「<sup>けが</sup>穢れ」という認識が変わったのは平安時代で、生理中の女性は宮中の行事から除外されるようになっていきました。その後、男性優位の社会が確立されていく中で、生理は<sup>けが</sup>穢れたもの、恥ずかしいもの、汚いものというイメージを男性のみならず女性自身も持つようになり、声を上げづらい風潮ができていきました。

しかし、生理も排尿や排便と同じ排泄であり、恥ずかしいことではありません。

日本の多くのトイレにはトイレットペーパーが当たり前であり、無料で使えます。女性にとってトイレットペーパーと同様に生理用品も必需品だということで、現在豊島区でも学校や施設のトイレに生理用品の設置が進んでいます。

生理の貧困は個人の問題ではなく、社会全体の問題と認識し、解決していくことが、誰もが生きやすい社会を作ることにつながります。

まずは、家族や友人や恋人と生理のことについて話してみたいかがでしょうか。

(参考:「生理用品の社会史 —タブーから—大ビジネスへ」  
田中ひかる著 ミネルヴァ書房発行)



## すずらんスマイルプロジェクト

あなたの「なんとなく…」を  
聞かせてください



コロナ禍において10代、20代の若い女性の貧困、虐待、自殺などが顕在化しました。豊島区では、生きづらさを抱える若年女性を支援するために、庁内横断のプロジェクト「すずらんスマイルプロジェクト」を立ち上げました。複数の課が部を超えて連携し、生理用品の配布、出張相談会等、様々な取り組みを始めています。

なぜ  
「すずらん」  
なの？

すずらんの花言葉は「再び幸せが訪れる・希望」。北海道のような寒い地域でも育つほど寒さに強く、群生し、毎年花を咲かせます。

若い女性が仲間を作り、明るく希望を持って生きてほしい。そんな思いを込めて「すずらん」にしました。

## 生理用品の配付のお知らせ

困難を抱えた若年女性が区の制度や支援につながるきっかけとするため、各相談窓口で相談いただいた方や生活に関するアンケートにご協力いただいた方に生理用品をお渡ししています。

### 【お受け取り方法】

相談窓口で直接お越しください。簡単なアンケートにご記入いただき、不安に思っていることや困ったことをお聞きます。どのようなことでも結構です。

秘密は守ります。

そして、生理用品と共に相談機関一覧表などをお渡しします。

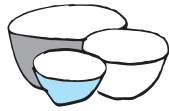
### 【配付時期】

令和4年3月31日  
(木曜)まで。

お渡しする  
相談窓口はこちら➡



## 男性のための家事・育児シェアリング講座



「育児クエスト」  
～家事と育児と仕事を  
分かち合いしパパママ～

令和3年11月27日(土) 午後2時～4時  
講師:高木 駿(たかぎしゅん)さん 主夫ラボ代表  
参加者:9名

『やってるつもりだけど、空回りするのはなぜ?』『仕事で疲れていても、子どもとうまく接する方法など、家事・育児と向き合う時のちょっとした視点の換え方について伺いました。ご自身の家事・育児の工夫や、不安や疑問、日頃感じている“ホンネ”なども飛び出し、活発な意見交流を行いました。

大事なことが書かれている男性に読ませたい母子手帳



高木さん手書きのイラスト



講師:高木駿さん

## エポック10区民企画講座2021

「モテるって何?」  
アンコンシャス・バイアスを知ろう!

日時:令和3年12月11日(土) 午後2時～4時  
講師:中島梨乃(なかしまりの)さん(性教育プロデューサー)  
参加者:11名



講師:中島梨乃さん

身近にあるジェンダーに関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込みや偏った考え)を参加者同士で話し合い考えるオンライン講座を実施しました。



参加者からは、「普段友達とは話せない内容を同年代と話せたのが貴重だった。」「アンコンシャス・バイアスは、「言っではいけない言葉」ではなく、「それに気づいた上でその原因と変えていく方法を考える」という議論の流れが非常に良かった。」といった感想がありました。

## 人生がうまく行く コミュニケーション講座

特別講座

～末期がんから生還してわかった  
生き方の極意とは?～

令和3年12月18日(土) 午後2時～4時  
講師:刀根 健(とねたけし)さん  
心理学研修講師・作家 著書「僕は、死なない」  
参加者:36名



参加者からは、「心と体が一体であることがわかった。」「自他ともに大切に生きる方をする。」「“がんばる”が強かった。リラックスをこころがけたい。」といった感想がありました。

## 第10回 「イクメン・カジダン・イクジイ写真展」

開催中!

【開催期間】  
令和4年  
2月19日(土) から  
3月18日(金) まで



令和4年3月5日開催!  
ワーク・ライフ・バランスフォーラム

募集中!

## ドイツのライフスタイルから学ぶ! ゆとりと実りある生き方

現代社会に生きる私たちは、「やらなければいけないこと」に追われ、忙しい…。でも、それは本当なののでしょうか?

今年度は『食事作りに手間暇かけないドイツ人、手料理神話にこだわり続ける日本人』の著者の今村武先生をお迎えします。

「毎日を頑張りすぎない。」そんなドイツの家庭における日常を参考に、ワーク・ライフ・バランスの観点から、生活にゆとりをもたらす考え方と実践のヒントを学んでみませんか?



【日 時】  
令和4年3月5日(土)  
午前10時～11時45分

【開催場所】  
としま産業振興プラザ  
(IKE・Biz) 6階  
多目的ホール

【講 師】  
今村 武さん  
(東京理科大学教授  
ドイツ文学者)  
【定 員】 52名  
【保 育】 あり  
(\*6カ月以上未就学児。  
要予約、先着順。)

## エポック10 情報

エポック10では、男女共同参画社会の実現に向け、講座、講演会などの開催、情報誌の発行、学習相談、区民や団体の交流の場や機会を提供しています。どなたでも、お気軽にご利用ください。

### 生理用ナプキンを無料で提供しています



女性個室トイレに、生理用ナプキンを無料で提供する機器「OiTr(オイテル)」を設置しました。

個室に掲示されているQRコードから専用アプリを自身のスマートフォンにダウンロードし、アプリをかざすことで、受け取ることができます。液晶モニターから映し出される広告動画による収益により生理用ナプキン代がまかなわれるため、区費用負担はありません。

〈設置場所〉

- 男女平等推進センター
- としま区民センター
- 区役所本庁舎



### 性別による差別などでお困りではありませんか？

男女共同参画施策に対する苦情や性別等による差別などの人権侵害について、苦情処理委員(弁護士等)に救済を求めることができます。お気軽にご連絡ください。

## 編集後記

- ◆ 講座、情報誌作成を通して自らも社会に転がっている複雑なジェンダー問題に向き合うことができました。(M.N)
- ◆ 12月11日の講座では、たくさんの方とお話を通して、私自身多くの気づきがありました。これからもつながりの輪が広がりますように!(丹波早雪)
- ◆ 若者世代に対するジェンダー問題を考えるきっかけ作りが、今回の企画だけでなく増えていくことを願う。(K)
- ◆ 区民の一員として、似たような志を持った学生・職員の皆さんと活動できて楽しかったです。(西野麗華)
- ◆ 講座やえぼっくめいカーの作成に携わる中で、様々な視点からジェンダーについて考えを深めることができ、良い経験になりました。(望月千聖)

### エポック10で行っている相談

#### 一般相談 03(3980)7830

◆ 月～土曜日の午前9時～午後5時(正午～午後1時を除く)です。面接相談は、事前にお問い合わせ下さい。

#### 専門相談予約 03(5952)9501 すべて予約制

◆ 専門相談は、女性の弁護士・臨床心理士・DV専門カウンセラーが相談に応じます。無料。DV相談に限り相談日当日午後7時半まで受付。

相談名	曜日	時間
法律①	第1金曜日	午後1時30分～4時30分
法律②	第3金曜日	午後6時～9時
こころ①	第2水曜日	午後1時30分～4時30分
こころ②	第4火曜日	午後6時～9時
D V	第1水曜日	午後6時～9時

DV相談以外は、区内在住・在勤・在学に限る。

### DV(ドメスティック・バイオレンス)相談

#### DV専用相談 03(6872)5250

◆ 月～土曜日の午前9時～午後5時(正午から午後1時を除く)



DV相談  
プラス

つなぐ はやく  
0120(279)889

◆24時間 受付

(内閣府)



### 豊島区立男女平等推進センター(エポック10)



としま産業振興プラザ  
(IKE・biz)3階  
エポック10

池袋駅西口から徒歩7分、  
メトロポリタン口から  
徒歩6分



〒171-0021

豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ3階  
TEL: 03(5952)9501 FAX: 03(5391)1015  
Eメール: A0029117@city.toshima.lg.jp

#### ◆◆ 開館時間 ◆◆

- ・月～土曜日：午前9時～午後9時
- ・毎月最終月曜日の前日(日曜日)：午前9時～午後5時
- ※ただし、毎月最終月曜日・祝日は休館です。

#### 【エポック10メルマガ登録】

豊島区公式ホームページ ⇒ メールマガジン登録募集 ⇒ エポックニュース(配信をご希望のかた)から登録できます。